

テロ対策特殊装備展 (SEECAT)

ハイテクインター通信困難地域でも映像伝送



「MPU5」

ような状況下でも現場の状況をリアルタイムで把握するための映像伝送技術の重要性は高まっている。

同社は、官公庁などの顧客の要望に対応するため、通信インフラが不十分なエリアから伝送を行う技術や商品を開発している。ULCは、超低レート通信回線であっても安定した映像を伝送できる映像圧縮技術。ビットレートの振れ幅があっても設定したビットレートを超えないように映像を送る技術を加えることで、衛星回線など限られた帯域でも安定した映像を送信する。

MPU5は、5・7GHz帯を利用した無人移動体映像伝送システム。ドローンや船舶、無人ヘリなどへ組み込むことができる。エンコーダ機能を有しており、同機間でアドホックネットワークを構築できるため、立ち入り困難なエリアや山間部、海上からでもリアルタイムの映像伝送が可能だ。今年実施した実証実験では、ULCの技術とMPU5の伝送ネットワークを組み合わせることで、通信インフラのない離島からでも衛星回線を使った映像視聴を実現した。上記2種に加え、通信回線が不十分な地域で役立つ可搬型巻き取り式空中線も紹介している。



◇ハイテクインター（東京都渋谷区、且尾紀人社長）は映像伝送技術「ULC(Ultra Low rate video Codec)」、無人移動体映像伝送システム「MPU5」を紹介。災害現場や山間地域・離島など、通信環境が厳しいエリアは存在する。この